

科目ナンバリング							
授業科目名 ＜英訳＞	ILASセミナー（海外）：暮らし・環境・平和 - ベトナムに学ぶ ILAS Seminar (Overseas) :Livelihood, Environment and Peace - Studying in Vietnam			担当者所属 職名・氏名	地球環境学舎 准教授 田中 周平 地球環境学舎 教授 舟川 晋也		
群	少人数群	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期集中	受講定員 (1回生定員)	12 (8) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	集中未定	教室	国外で実施（ベトナム）			使用言語	日本語
キーワード	ベトナム / 国際交流 / 地域開発 / 戦争						
【授業の概要・目的】							
ベトナム国の都市域（フエ市、ハノイ市、ダナン市）および農村域（フエ市周辺）において、住民参加と在来性を尊重する立場から環境保全、村落開発の取り組みを知る臨地研修を通して、「国際的」な学習の意義を考える。指導教員との議論を通して、暮らしの豊かさや平和とは何か、地域開発支援における外部者の振る舞い、私たちと環境の関わりのあり方などを考える。また、海外渡航での安全管理や地域の人々との関わりの作法など、海外研究の基礎を理解する。							
【到達目標】							
暮らしの豊かさや平和、途上国における地域開発のあり方について、ベトナムにおける実体験に基づいて、考察できる。課題をみずから発見し、考察し、発表する能力を養う。							
【授業計画と内容】							
臨地研修は、ベトナム国の農村部での生業活動および環境マネジメントを知る野外巡検、都市部での自由課題調査、文化遺産や史跡・戦跡の見学、地域住民との交流、フエ大学の教職員および学生との交流を内容とし、8月上旬～中旬におよそ2週間の日程で実施する。安全管理のため、常時最低2名の教員が帯同する。事前講義2回（6月下旬と7月下旬実施予定）では、ベトナムの歴史、農業と環境、暮らしと水、ラグーンにおける生業の変遷など臨地研修の内容と関わりの深いトピックについて概要を説明し、臨地研修までに予習しておくとい項目を提示する。さらに、海外における安全確保や荷物の準備の方法など実際の渡航に関わる具体的な事柄についても詳細に説明する。							
経路および研修内容は、以下の通り。							
1. 京都 - 関空 - ホーチミン（空路移動）							
2. ホーチミン市内見学（戦争証跡博物館、統一会堂等）、ホーチミン - フエ（空路移動）～現地 で学ぶベトナム戦争と商業都市ホーチミンの現在～							
3. 研修オリエンテーション、交流会（フエ大学）							
4. 山村での野外巡検（土地利用、生業活動、環境保全活動の観察）～山間少数民族の文化・生業・ 環境の変容と適応～							
5. 山村でのヴィレッジ・ウォーク、域内マーケット訪問 ～山間部の農村に見る都市と農村の関 係～							
6. ホイアン街並み保存地区見学 ～世界遺産の街ホイアンにおける観光・歴史・環境～							
7. ミーソン遺跡見学 ～現在のベトナムにおけるチャンパ王国の文化的価値と戦争の影響～							
8. フエ市内史跡見学（フエ大生との交流プログラム）～古都フエ・京都の大学間交流とこれまでの 研究者・プロジェクト協力について～							
9. 平野部およびラグーンの暮らしと生業活動の見学 ～農業・水産漁業のなりわいとその環境～							
ILASセミナー（海外）：暮らし・環境・平和・ベトナムに学ぶ(2)へ続く							

ILASセミナー（海外）：暮らし・環境・平和・ベトナムに学ぶ(2)

- 10．戦跡訪問（旧非武装地帯の地下住居、戦没者墓苑）～戦争跡地で考える戦後世代にとっての戦争とベトナムのアイデンティティ～
- 11．研修報告会（フエ大学）
- 12．フエ・ダナン（陸路移動）、ダナンの環境関連施設見学 ～中規模都市ダナンにおける環境問題とその取り組み～
- 13．ダナン - ハノイ（空路移動）、民族学博物館見学
- 14．タンロン遺跡見学、ハノイ - 関空（空路移動、翌日着）～政治の都ハノイの歴史的な変遷と今～

【履修要件】

- 1.海外臨地研修への参加は、事前の集中講義 2 回の受講を必須とする（6 月下旬と 7 月下旬の予定）。
- 2.海外渡航に伴うリスクを十分認識し自らの意思と責任において参加すること。保護者の了承を得ること。
- 3.安全講習の受講、学研災付帯海外留学保険への加入が確認できない学生は、ILASセミナー（海外）に参加することはできません。

【成績評価の方法・観点】

事前講義・現地研修への参加態度、現地報告会(研修体験を英語で発表)と研修レポートにより判定する。

【教科書】

プリントを配布

【参考書等】

（参考書）
『現代ベトナムを知るための 60 章』
『ベトナム・フエ・ラグーンをめぐる環境誌』
『ベトナム経済の基礎知識』
開高 健 『ベトナム戦記』

【授業外学修（予習・復習）等】

臨地研修で見聞する事柄の背景情報として、ベトナムの歴史・文化・産業構造などについて事前講義で概要を説明するが、自身でも学習を深めておく。帰国後は、研修中に考えたこと、感じたことをその後の生活・人生にどのように生かすのか、思索・学習を深めてもらいたい。

【その他（オフィスアワー等）】

- 1.海外臨地研修にかかる渡航費、滞在費、研修実費および海外留学保険加入等に要する費用を工面できること。研修費用（渡航費、滞在費、研修実費、海外留学保険など）の参加者負担額は14万円程度を見込む（平成28年度実績：14.4万円）。
- 2.フエ市周辺はマラリアやデング熱などの疾病の発生地域であり、加えて、医療事情が悪いことを理解したうえで参加の可否を判断されたい。
- 3.採点報告日以降に実施するため、成績報告は遅れる。